

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年12月8日(2011.12.8)

【公表番号】特表2011-500790(P2011-500790A)

【公表日】平成23年1月6日(2011.1.6)

【年通号数】公開・登録公報2011-001

【出願番号】特願2010-530613(P2010-530613)

【国際特許分類】

A 6 1 K 33/26 (2006.01)  
 C 0 8 L 1/10 (2006.01)  
 C 0 8 L 5/00 (2006.01)  
 C 0 8 K 3/10 (2006.01)  
 C 0 8 K 5/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 17/00 (2006.01)  
 A 6 1 K 33/06 (2006.01)  
 A 6 1 K 9/08 (2006.01)  
 A 6 1 K 47/38 (2006.01)  
 A 6 1 K 47/36 (2006.01)  
 A 6 1 K 47/04 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 33/26  
 C 0 8 L 1/10  
 C 0 8 L 5/00  
 C 0 8 K 3/10  
 C 0 8 K 5/00  
 A 6 1 P 17/00 1 7 1  
 A 6 1 K 33/06  
 A 6 1 K 9/08  
 A 6 1 K 47/38  
 A 6 1 K 47/36  
 A 6 1 K 47/04

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月21日(2011.10.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

毛状疣贅を治療するための方法であって、該方法は、：

( a ) ( i ) 金属収斂剤であって、該金属が鉄およびアルミニウムの少なくとも 1 種からなる群から選択された金属収斂剤、ならびに ( i i ) 任意選択的に、増粘剤、界面活性剤、スキンコンディショナー、緩衝剤、フィルム形成ポリマー、着色剤、およびそれらの混合物の少なくとも 1 種、からなる水溶液を調製する工程、

該金属収斂剤は、ポリマー種とモノマー種との混合物であり、そして該ポリマー種は、該水溶液中において該金属収斂剤の約 10 重量%より多い；および

( b ) 毛状疣贅病を治療するために、乳牛の脚下部および蹄領域に、該水溶液を適用す

る工程、  
を含んでなる、方法。

【請求項 2】

金属塩の一部がポリマー種を生成するように、該金属塩を加水分解することによって、該水溶液が調製される、請求項 1 の方法。

【請求項 3】

該水溶液が、約 4 . 0 ~ 6 . 0 の pH を有する、請求項 1 の方法。

【請求項 4】

該金属収斂剤が、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウム、硫酸ナトリウムアルミニウム、硫酸カリウムアルミニウム、酢酸アルミニウム、アルミニウムサブアセテート、酪酸アルミニウム、塩化第二鉄、硫酸第二鉄、フェリックサブサルフェート、ポリ塩化アルミニウム、ポリ硫酸アルミニウム、ポリアルミニウムクロロ硫酸塩、ポリアルミニウムシリケートサルフェート、ポリ塩化第二鉄、ポリ硫酸第二鉄、およびポリアルミノ硫酸第二鉄の少なくとも 1 種 からなる、請求項 1 の方法。

【請求項 5】

該ポリマー種が、該水溶液中において、該金属収斂剤の約 2 5 ~ 約 9 5 重量 % の範囲にある、請求項 1 の方法。

【請求項 6】

毛状疣贅を治療する方法であって、該方法は：

( a ) アルミニウムおよび鉄の少なくとも 1 種、ならびに任意選択的に、増粘剤、界面活性剤、スキンコンディショナー、緩衝剤、フィルム形成ポリマー、着色剤、およびそれらの混合物の少なくとも 1 種、からなるポリマーの金属濃縮物を薄めることによって、収斂剤溶液を調製する工程；および

( b ) 毛状疣贅を治療するために、乳牛の脚下部および蹄領域に該収斂剤溶液を適用する工程、  
を含んでなる、方法。

【請求項 7】

該ポリマーの金属濃縮物が、ポリ塩化アルミニウム、ポリ硫酸アルミニウム、ポリアルミニウムクロロ硫酸塩、ポリアルミニウムシリケートサルフェート、ポリ塩化第二鉄、ポリ硫酸第二鉄、およびポリアルミノ硫酸第二鉄の少なくとも 1 種 からなる、請求項 6 の方法。

【請求項 8】

該収斂剤溶液中において金属含有量が、約 0 . 0 1 ~ 約 1 . 5 重量 % の濃度である、請求項 6 の方法。

【請求項 9】

該収斂剤溶液が、ポリマー種とモノマー種との混合物 からなり、そして該ポリマー種が、該収斂剤溶液の約 2 5 ~ 約 9 5 重量 % である、請求項 6 の方法。

【請求項 10】

該収斂剤溶液を調製する工程が、増粘剤、界面活性剤、スキンコンディショナー、緩衝剤、フィルム形成ポリマー、着色剤の少なくとも 1 種 からなる 第 2 の濃縮物を希釈する工程、および該収斂剤溶液を生成するために、該希薄されたポリマーの金属濃縮物と該希薄された第 2 の濃縮物とを混合する工程を含む、請求項 6 の方法。

【請求項 11】

鉄およびアルミニウムの少なくとも 1 種を含む金属収斂剤、

ここで、該金属収斂剤は、ポリマー種とモノマー種との混合物であり、そして該ポリマー種は、該水溶液中において該金属収斂剤の約 2 5 ~ 約 9 5 重量 % である；および

、  
界面活性剤および増粘剤の少なくとも 1 種、  
からなる、水溶液。